

町民大学講座を振り返る

～子どもとの関わり方&楽しく健康になる生き方～

第3回の町民大学講座を社会教育委員の方が受講し、振り返りの文章を執筆して頂きましたので掲載させていただきます。

柔道三姉妹を育てた講師の上野和香子さんの講演と聞き、参加しました。「コオーディネーショントレーニング」と聞きなれない言葉に戸惑いながら、先生のお話や動画等を通して脳と心と体に刺激を与え、運動の学ぶ力を高めるトレーニング方法であることを学びました。

当日は、小学生とその父母、高齢者、若者など幅広い年齢層が40名ほど参加しました。

講演の後、体育館に移動し、楽しみながら誰でも取り組める運動を二時間近くにわたって体験しました。



↑柔剣道場にて講演会の様子



↑スポーツセンターにてコオーディネーショントレーニングを体験している様子

飛び跳ねたり、体をひねったり、交互に体を動かす体操から始まり、ボールやフラフープを使って瞬時に判断して行動する感覚や合図などに対して素早く反応する能力等を養うための運動を行いました。

私は11月にたきのうえのパークゴルフ場がクローズしてからは体を動かす事がほとんどなく、ちょっと心配でしたが参加しました。

最初の体操やボール投げなどはスムーズにできたのですが、2人が組になって相手の反応に合わせた動きや協働で行う運動になると体が反応せず失敗ばかりでした。

親子で参加したり、高齢者が誘い合って参加できる事業はこれからも続けていってほしいなと思いました。

「有茎尖頭器」(石器)

おぐり アイ 小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます!

明治三十八年に滝上に最初の開拓者が来てから、今年で百十三年が過ぎました。明治三十八年の最初の一人から、大正七年分村の時には、五千二百六十三人、昭和三十六年に最多の一万四千二百十四人になりました。それから今年一月一日には、二千六百十六人になってしまいました。分村の時の半分です。

ところで、明治三十八年より前には、人はいなかったのでしょうか。開拓のころの人から聞き書に「アイヌの人の世話になった。」ということがいくつも残されています。開拓の前からアイヌの人が住んでいたのです。その前の擦文文化、オホーツク文化、続縄文、縄文、旧石器時代と遡る大昔にも、この大地に生きる人々はいたはずですよ。

町内四十四箇所で大古の遺物が採集されています。発掘調査がされていませんから、正確な年代はわかりませんが、旧石器時代と思われる「尖頭器(石器)」が発見されています。

尖頭器は、槍や銛の先につける刃です。縄文時代になると、矢の先につける小さな尖頭器、石鏃が多くなります。縄文時代に特徴的な有茎尖頭器(「かなづ」という、柄や矢柄に取り付ける突起のある石器です。よりしっかり固定できます。)

ちなみに、この石器は「有舌尖頭器」とも呼ばれています。突起部分がペロツと出した舌のようにも見えるため、この呼び方をされる事もあります。

石器などの資料を見て、滝上の太古の自然の様子とそこに生きた人々の生活に思いを馳せてみましょう。

【参考文献】：滝上町の先史時代



↑郷土館所蔵の尖頭器